

こども
子供のインターネットバイブル
あんない
案内いたします

かみ
神さまに仕える
しょうねん
少年サムエル



ぶん
文: Edward Hughes
え
絵: Janie Forest

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick
しゅつばんしゃ
出版社: Lyn Doerksen

60話の第17話

www.M1914.org

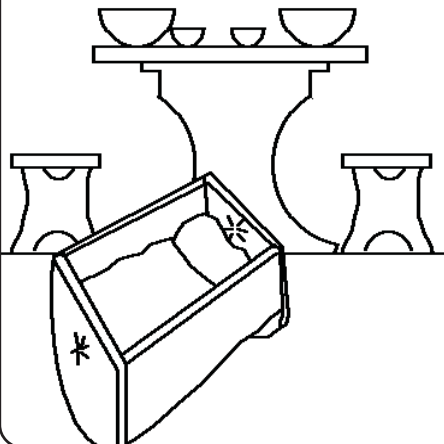
Bible for Children, PO Box 3, Winnipeg, MB R3C 2G1 Canada

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

日本語

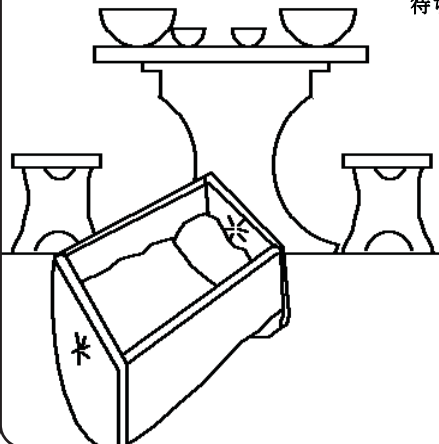
Japanese

ハンナという、とても心やさしい女の人がありましたよ。
その夫エルカナも、ほんとうに良い人でした。2人とも神さまを礼拝し、
ほかの人にもやさしくしんせつでした。でもね、ハンナは、なぜかさびしそう。
何か思っていることが
あるのでしょうか。



1

じつは、ハンナは、赤ちゃんがほしかったのです。かの女は、どれほど
赤ちゃんがほしかったことでしょうか。まいにち祈りながら待ちましたよ。
きっと神さまが赤ちゃんをくださるだろうと思い、たくさんたくさん祈って、
待ちつづけました。でも、神さまは、
まだくださらないのです。



2



とし
まい年、ハンナは神さまの礼拝堂へ、
れいはい
礼拝に行きました。ある年のこと、
ハンナは神さまに祈り、こうやくそくしました。
かみ おとこ こ
「神さま、もし男の子をくださるのなら、
わたしはその子をいつまでも神に仕え
るものして、さし出すでしょう。」

3



れいはい
その礼拝堂に、
とし
もう年をとっているエリ
さいし
という祭司がいました。
いは
かれは、ハンナが祈っ
かみ
ているようすを見てこ
おも
う思いましたよ。

4



しゅ
きっとハンナはぶどう酒を
のみすぎたにちがいない。
じょ ぐろ
かの女の口びるは、
ずっとうごいているのに、
こえ
声はぜんぜん聞こえてこない
じゃないか。そこで、エリは
ハンナをしかりました。

5



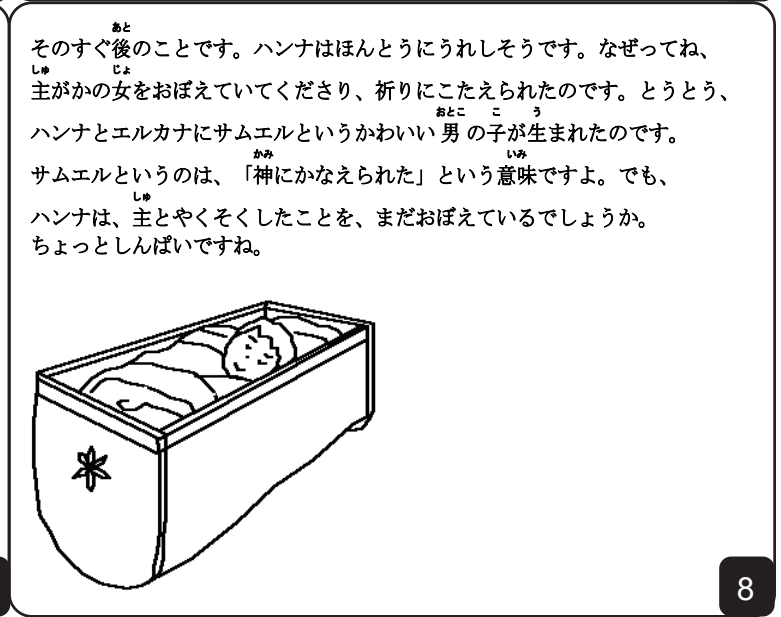
「いいえ、ちがうのです。
さけ
わたしはお酒のんではい
ません。」ハンナは、エリに
こう言いました。「わたしは、
どうしても子どもがほしいのです。
かみ
ですから、もしくださったら、神に
その子をささげるとやくそくをして
いたのです。」

6



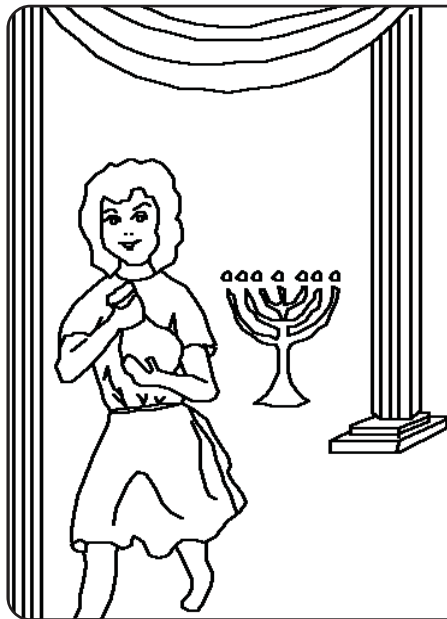
き
それを聞いたエリは、
「どうぞ平安が与えられま
へいあん あた
すように。」と言って、
ハンナをはげしました。
かみ
「ハンナよ、イスラエルの神さまは、
きっとあなたのねがいを聞き入れて
くださるだろう。」これを聞いたハンナ、
ほんとうにうれしくなりましたよ。

7



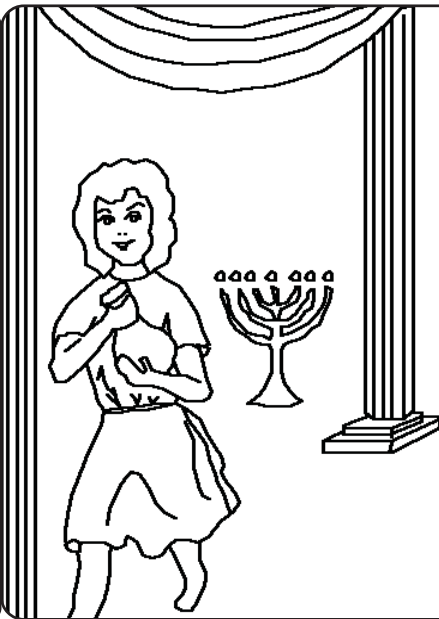
あと
そのすぐ後のことです。ハンナはほんとうにうれしそうです。なぜってね、
しゅ
主がかの女をおぼえてくださり、祈りにこたえられたのです。とうとう、
おとこ こ
ハンナとエルカナにサムエルというかわいい男の子が生まれたのです。
いみ
サムエルというのは、「神にかなえられた」という意味ですよ。でも、
しゅ
ハンナは、主とやくそくしたことを、まだおぼえているでしょうか。
ちよっとしんばい
ですね。

8



じつは、まい年、神さまの
礼拝堂に礼拝に行っていた
ハンナが、どういわけか行く
のをやめてしまったのです。
ああ、どうしましょう。
ハンナはやっぱり神さま
とのやくそくをやぶって
しまうつもりでしょうか。
いいえ、しんばいしなく
てもいいのですよ。

9



ハンナは、ただサムエル
が少し大きくなるのを、
まっていただけなのです。
主の礼拝堂へ行って、
エリのお手伝いをして、
神さまに仕えられるぐら
い大きくなるまでね。
だから、サムエルが少
し大きくなると、
ちゃんと礼拝堂へつ
れていきましたよ。

10



神さまは、ハン
ナが心から神を信じ、
したがっていることを
たいそうよろこばれ、
それから3人のむすこ2人
のむすめをくださいました。
もちろん、ハンナはまい年、
神さまの礼拝堂に礼拝にい
きましたよ。
そして礼拝堂へ行くたびに、
サムエルのためにあたらしい
服を作り持っていきました。

11



サムエルは、ただ1人でエリのお手伝いをしていただけ
じゃないのです。エリには、ホフニとビネハスという2人
のむすこがいました。かれらもまた、エリのお手伝い
をして、サムエルといっしょにはたらいていました。
けれども、かれらは「神さまなんか
どうでもいいよ。」
と言って、よくないこと
ばかりしていました。

12



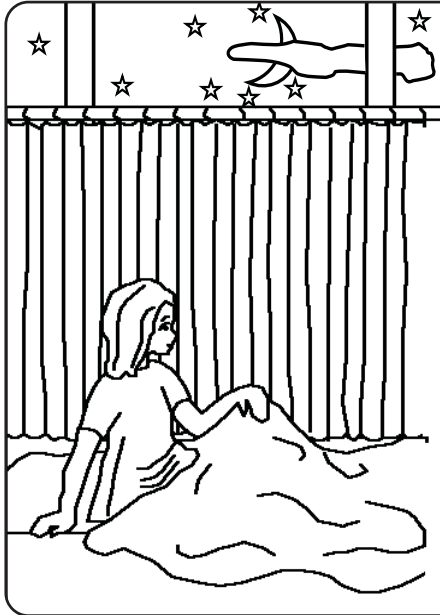
お父さんのエリが、2人に神さまにしたがうように
たのんだときでさえも、聞こうともしないで、
やっぱり悪いことばかりしていました。
エリはむすこたちに、「出て行っておくれ。
もうおまえたちは、ここではたらくことは
できない。」ときっぱり言う
べきだったのですね。
でもエリはそう言わ
なかったのです。

13



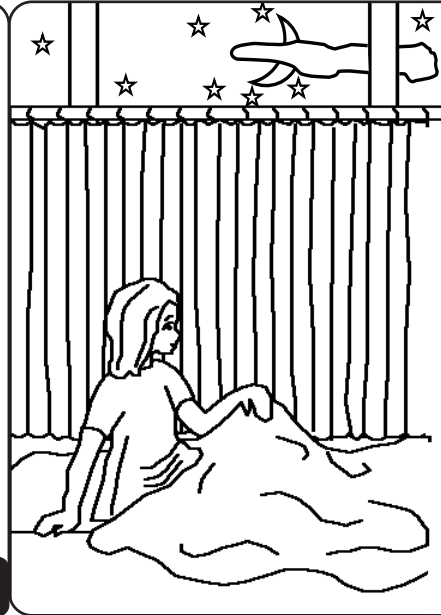
ある夜のことで
サムエルはどこからか
「サムエル、サムエル」
と自分の名前を呼んでい
る声が聞こえてきました。
「きっとエリがぼく
を呼んでいるんだ。」
と思ったサムエルは、
「ぼくはここにいますよ。」
とへんじをしました。
ところが、「サムエル、
わたしは、おまえを
呼んでいないよ。」

14



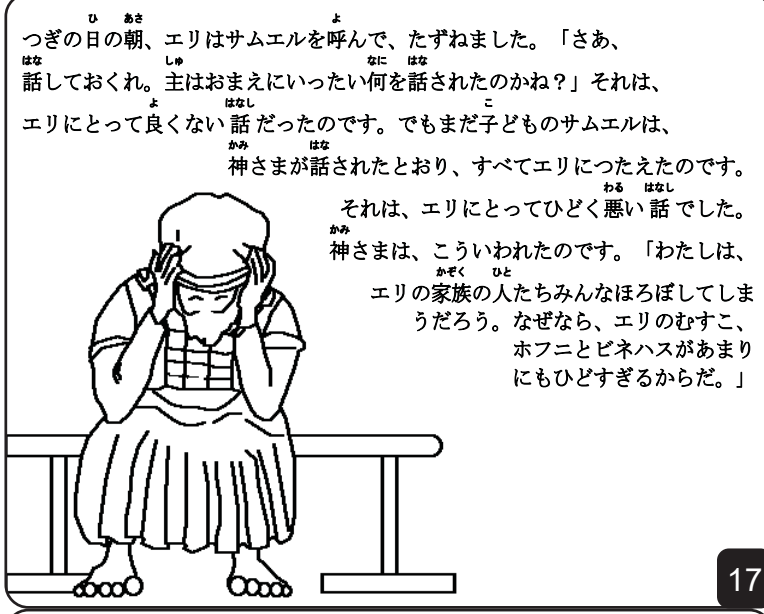
とエリはこう言うのです。
 同じことが3回もありましたよ。そのとき、エリはわかりました。
 神さまが、サムエルを呼ばれているのだと。
 そして、神さまは、サムエルに何か話そうとされていることがね。

15



エリは、言いました。「サムエル、もし、もういちど名前を呼ばれたら、こう言うんだよ。はい、主よ、話してください。あなたのしもべはここにおります、ってね。」さて、それからまた、「サムエル、サムエル」って声が聞こえてきました。そしてそこで、神さまは、サムエルにとっても大切なことを、話されたのです。

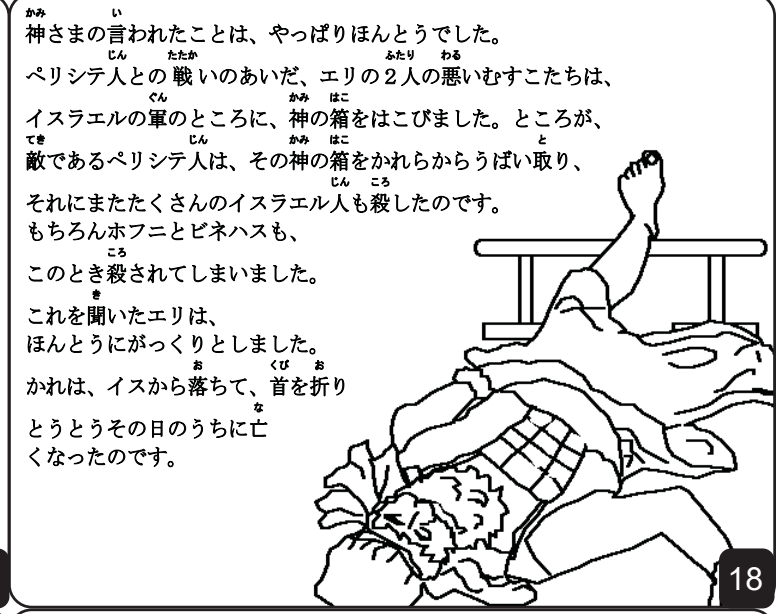
16



つぎの日の朝、エリはサムエルを呼んで、たずねました。「さあ、話しておくれ。主はおまえにいったい何を話されたのかね？」それは、エリにとって良くない話だったのです。でもまだ子どものサムエルは、神さまが話されたとおりに、すべてエリにつたえたのです。

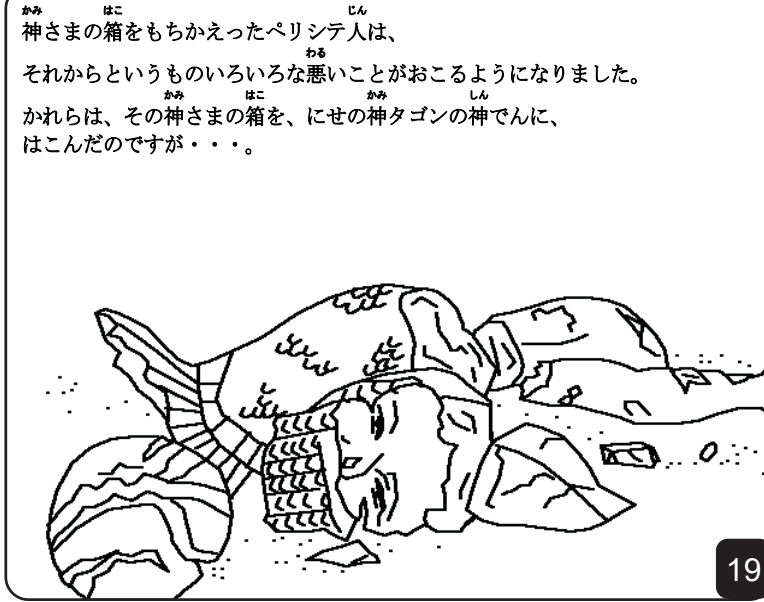
それは、エリにとってひどく悪い話でした。
 神さまは、こういわれたのです。「わたしは、エリの家族の人たちみんなほろぼしてしまうだろう。なぜなら、エリのむすこ、ホフニとピネハスがあまりにもひどすぎるからだ。」

17



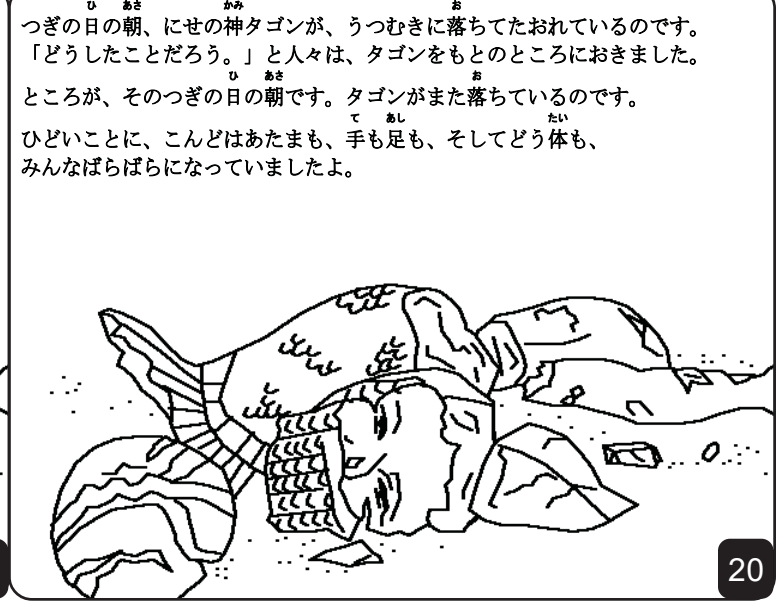
神さまの言われたことは、やっぱりほんとうでした。ペリシテ人との戦いのあいだ、エリの2人の悪いむすこたちは、イスラエルの軍のところに、神の箱をはこびました。ところが、敵であるペリシテ人は、その神の箱をかれらからうばい取り、それにまたたくさんのイスラエル人も殺したのです。もちろんホフニとピネハスも、このとき殺されてしまいました。
 これを聞いたエリは、ほんとうにがっかりとしました。かれは、イスから落ちて、首を折りとうとうその日のうちに亡くなったのです。

18



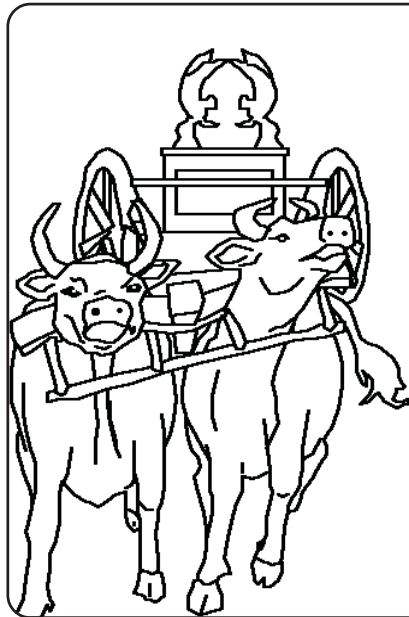
神さまの箱をもちかえったペリシテ人は、それからというものいろいろな悪いことがおこるようになりました。かれらは、その神さまの箱を、にせの神タゴンの神でんに、はこんだのですが・・・。

19



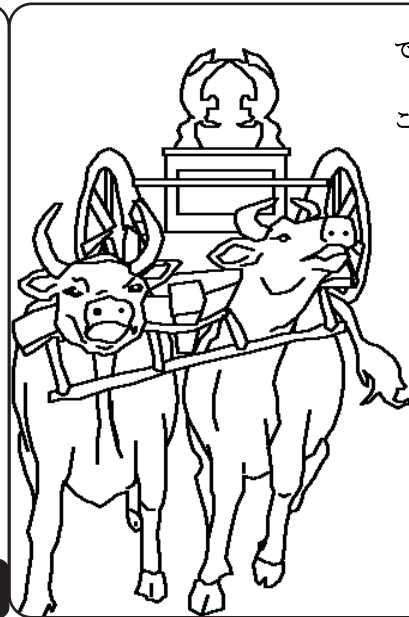
つぎの日の朝、にせの神タゴンが、うつむきに落ちてたおれているのです。「どうしたことだろう。」と人々は、タゴンをもとのところにおきました。ところが、そのつぎの日の朝です。タゴンがまた落ちているのです。ひどいことに、こんどはあたまも、手も足も、そしてどう体も、みんなばらばらになっていましたよ。

20



そのあと、ひどい病気が広がり、
だんだん死ぬ人がふえてきました。
ペリシテ人は、
こう思いました。もしかして、
神さまが自分たちにばつを与えられ
ているのかもしれないって。そこで、
かれらは2とうのお母さん牛に、
神さまの箱をのせた荷ぐ
るまをはこばせましたよ。

21



でもね、そのお母さん牛の子牛たちは、
うちにおいておきました。もし、
ここでお母さん牛たちが、まっすぐイス
ラエルに向かい子牛のところをはなれ
て行くのなら、神さまがばつを与え
られているということなのです。
さあ、お母さん牛は、
どうすんだのでしょうか。
そう、まっすぐまっすぐ、
イスラエルに向かいましたよ。
決してまがらずにね。

22



さて、そのころサムエル
はどうしていたでしょう。
もう大人になっていたサムエルは、
イスラエルの人々にこう言いました。
「もし、みなさんが、
心から主を信じ、
主のもとに帰るなら、
主はわたしたちをペ
リシテ人の支配から、
救いだしてくださるでしょう。」

23



人々はみんな、
いつも神さまに仕え神さまのこ
とばを伝えるサムエルを信じ、
そのことばにしたがうよう
になりました。だからね、
それから神さまはいつでもサ
ムエルがいるイスラエルを、
ペリシテ人から守っ
てくださいましたよ。

24

神さまに仕える少年サムエル

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

サムエル記上 1 章 - 7 章

あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。
詩篇 119:130

神さまは、私たちがよくないことをしたことを、しっぺいらっしやいます。
神さまは、それを罪とよばれています。罪のむくい、死です。

神さまは、私たちをととも愛されたので、み子イエスさまをこの世におくってくださいまし
た。そして、イエスさまが十字架で亡くなられることによって、私たちの罪をとってくだ
さったのです。イエスさまは、よみがえられ天国へ
もどられましたね！ですから、今、神さまはあなたの罪をゆるしてくださいます。

もし、あなたがあなたの罪からはなれたいなら、神さまにこう言ってください。
愛する神さま、私は、イエスさまが私のために亡くなってくださり、よみがえって、今また
生きていらっしやることを信じます。どうか、私のこころの中に入り、罪をゆるしてくださ
い。それで、私は今、あたらしい命をいただくことができます。そして、いつまでも、あな
たといつしよにいることができるのです。あなたの子として、生きることができますよう、
たすけてください。アーメン

ヨハネによる福音書 3 : 16

まいにち、聖書をよみ、神さまと、おはなししましょう！